

社会政策学会 Newsletter

◇学会本部 大分大学 経済学部 石井まこと研究室
URL : <http://jasps.org> TEL : 097-554-7698 E-mail : mak@cc.oita-u.ac.jp
◇編集・発行 石井まこと(代表幹事) 岩永理恵・榎一江(Newsletter 担当幹事) 大西祥恵(事務局長)
◇事務センター 〒162-0825 東京都新宿区神楽坂 4-1-1 オザワビル (株)ワールドプランニング
TEL : 03-5206-7431 FAX : 03-5206-7757 E-mail : jasps@worldpl.jp

【目次】

1. 第 142 回(2021 年度春季)大会のお知らせ・大会
実行委員会からのご挨拶
2. 第 143 回大会(2021 年度秋季)大会実行委員会
からのお知らせよりご案内
3. 第 143 回大会(2021 年度秋季)大会の開催予告
および報告募集
4. 第 141 回(2020 年度秋季)大会報告
5. 第 141 回(2020 年度秋季)大会会計報告
6. 社会政策学会 2020 年度経常会計予算
7. 社会政策学会 2020 年度特別会計予算
8. 2020-2022 年 期 幹 事 会 議 事 録
9. 名誉会員の推挙
10. 承認された新入会員

1. 第142 回(2021 年度春季)大会のお知らせ・ 大会実行委員会からのご挨拶

社会政策学会 142 回大会は、2021 年 5 月 22 日(土)と 5 月 23 日(日)両日オンライン形式で開催されます。本大会については一橋大学での開催を模索しておりましたが、折からの COVID-19 の流行の影響を受けて、オンライン形式で開催することになりました。それに併せて、開催予定校の一橋大学の会員グループが、引き続きオンライン形式での大会実行委員会を構成することになりました。

従来ですと、大会期間中会場の内外で学会員間の様々な交流が行われるのが通例であります。その機会が失われたことは残念なことではあります。その代わりに十分なるわけではありませんが、現在実行委員会としてオンライン懇親会を企画しておりますので、ご利用いただければ幸いです。

本大会では、「パンデミックと社会政策の未来」というまさにタイムリーなテーマで共通論題が開催されま

す。この 1 年、会員の多くの方々が研究・教育両面で影響を受け、その中で多くのことを考えてこられたことと存じます。会員のみなさんが温めてこられた認識をぶつけ合うようなセッションになることを期待しております。

また 5 月 23 日のランチタイムには、院生・若手会員向けの教育セッションが開催されます。昨年本学会では、研究者育成フォーラムが設置され、次世代の研究者育成に本腰を入れてゆくことになりました。本セッションも本学会における次世代育成強化の一環に位置づけられるものです。社会政策関連分野において研究者を目指す院生等のみなさんの積極的なご参加をお待ちしております。

個人的には、日本の近代建築史に大きな足跡を残した伊東忠太の設計といわれる兼松講堂を含む、一橋大学の歴史あるキャンパスでみなさんをお迎えできなかったことは残念ではあります。もっとも、キャンパスが消滅するわけではありませんので、東京にお越しの際には、国立まで足を伸ばしていただければ幸いです。

オンライン開催には良い面もあります。対面形式の場合、開催地から遠方の方々の参加が難しい場合があるのですが、オンラインの場合そのような障壁がありません。多くの会員のみなさまのご参加を心待ちにしております。

(第 142 回大会実行委員長 猪飼周平)

2. 第143 回大会(2021 年度秋季)大会実行 委員会からのお知らせよりご案内

2021 年秋季第 143 回大会は半世紀ぶりに福島大学で開催される予定です。とはいえ、現下の状況から今春の第 142 回大会(一橋大学)もオンラインでの開催と決まりました。その点では今秋の対面開催についてもまだ

確たる保証はありません。

そうではありますけれども、私たち実行委員会はみなさまのご来福——この地ではこういうことばを遣います——を切に願って万端の準備を進めます。

- ・日程：10月16日（土曜日）、17日（日曜日）
- ・場所：福島大学 金谷川キャンパス
（福島県福島市金谷川1番地）
- ・共通論題：「歴史研究からみる労働と生活の規範形成——資本主義と家父長制の相互作用（仮）」

最寄り駅は東北本線の金谷川駅、松川事件の現場に至近です。ご宿泊には福島駅近辺が便利ですが、福島金谷川間の電車は本数が少ないのでご注意ください。乗車時間は約10分、金谷川駅から会場受付まで徒歩約12分かかります。

なお、本大会は福島市のコンベンション推進事業による助成を申請する予定です。使い勝手の良い助成制度ではありますが、参加者が福島市内の宿泊施設に宿泊

される「のべ人・泊数」で助成額が決まるというシステムです。福島市の客室キャパシティはじゅうぶんありますけれども、福島市との条件交渉のため、お早めに宿泊の手配をお願いいたします。

また、10月18日（月曜日）、震災10年の年このせつかくの機会に、ご希望の方には東京電力福島第1原発の構内視察・廃炉作業視察にご案内します。社会政策学会でも久しぶりの大会エクスカージョンで、なにより他所にはない特別な行き先です。事故を起こしたうえで廃炉作業が進行中の原子力発電所であるため、保安と安全のための法規制がとて強い施設です。近日中に詳しいご案内を会員向け一斉メールでお届けする予定です。かなり早い時期からのご案内であることに加え、その「ご案内」で説明しますように、いろいろと面倒な制約も課されるエクスカージョンであるという点でも異例ではあります。ご面倒をおかけしますが、よくご理解のうえ、是非ご参加をご検討いただければ幸いです。

（2021年2月25日第143回大会実行委員会 福島大学 熊沢 透）

3. 第143回大会（2021年度秋季）大会の開催予告および報告募集

- ・日時：2021年10月16日（土）～10月17日（日）
- ・会場：福島大学
- ・10月16日（土）自由論題、テーマ別分科会
- ・10月17日（日）書評分科会、自由論題、テーマ別分科会、共通論題「歴史研究からみる労働と生活の規範形成（仮）」
- 座長：小野塚知二 会員（東京大学）
- 報告者：①亀山俊朗 会員（中京大学）
②石井香江 会員（同志社大学）

③富江直子 会員（茨城大学）

④満園勇 非会員（北海道大学）

*自由論題報告、テーマ別分科会の募集日程は以下のとおりです。

- ・募集案内の告知 2021年4月12日（月）
- ・募集開始 2021年5月21日（金）
- ・募集締め切り 2021年6月25日（金）
- ・フルペーパー・ファイルの提出期間は9月20日（月）～9月27日（月）を予定しています。締切の厳守をお願いいたします。

（秋季大会企画委員会 金井郁・水野有香）

4. 第141回（2020年度秋季）大会報告

1) オンライン大会開催の経緯

141回大会は当初、立命館大学琵琶湖草津キャンパスにて佐藤卓利会員を実行委員長として開催をする予定であった。2020年春から国内外に広がるコロナ禍で、春季大会は共通論題を急遽オンライン開催とし、それ以外はすべてホームページ上でのフルペーパー掲載による開催と

なった。社会政策学会大会始まって以来の対応を余儀なくされるなか、春季大会は無事に開催された。

これを受け、今期幹事会で「学会活動を止めない」を合言葉にスタートし、幹事会が立ち上がる前に、学会主要行事の大会をいかに実施するか、都合4回の準備会を行った。さらに、これとは別に新旧の秋季大会企画委員会、新広報委員長、新重点事業担当世話人、新事務局

による検討会議を設けて議論を重ねた。

対面開催を可能な限り模索し続けたが、5月の時点では、10月の感染状況が分からず、会員に対しては、141回もオンライン開催になる可能性があることをアナウンスし、秋季大会の募集を1か月程度遅らせた。

新幹事会が立ち上がった第1回幹事会(5月24日)にて、秋季大会をオンライン開催で実施する準備に入った。まずはオンライン技術サポートチームを編成し、座長を代表幹事とする秋季大会開催実行委員会を開催することの幹事会了承を受けた。1回目の実行委員会を5月26日にZoomにて開催し、1か月延期した6月22日(月)の応募開始までには、大会の開催方法を定めることとし、この間、会議を重ね、あらゆる可能性を模索した。

まず、予算の範囲内でプロの業者に入ってもらうことを検討した。しかし、配信はできても、ライブでの質疑応答のサポートまでやってくれる業者はなく、フリーランスの方で技術サポートができる方を探したが、これも短期間では該当する方を見つけられなかった。

行きついた先は、すべて自前で行うということになった。6月中旬にこの決断を実行委員会内の主要メンバーで確定し、6月20日の幹事会にかけの報告募集案やオンライン大会の進行案を決めた。

オンライン開催にあたり、当日トラブルで大会開催ができないことがないように万全を尽くすこととし、共通論題はじめ全てのセッションは必ずリハーサルを行うこと、テーマ別分科会は分科会で責任をもってオンライン配信のホスト役を用意すること、自由論題では企画委員会がホスト役を用意することにした。その際、秋季大会企画委員会で足りない部分は春季大会企画委員会に頼み、次回春季は秋季が応援に入ることとした。

なお、会費はオンラインでの課金方法が困難なこと、社会政策学会を宣伝するいい機会であること、経費は通常よりも安価になると予想され、徴収しないことになり、非会員にも開かれた大会とすることとした。

2) オンライン大会開催までの準備

6月22日からオンライン開催によりZoom環境を各自で用意してもらうことやリハーサル参加を条件に報告募集を開始した。

7月13日に締切とし、18日の幹事会でテーマ別で7セッション、自由論題幹事会で8セッションが了承された。

オンラインでそれぞれのセッションに何名参加するかわからず、300名まで入る通常のZoomに加え、共通論題用および総会用に500名まで入る大規模Zoomを実行委員長名で契約することにした。使用期間はリハーサルも入れて2か月間10ライセンスで下記の会計報告にある通り、比較的安価で契約を行うことができた。

パンフレットには、オンライン大会への参加方法や、Zoomのアクセス方法、また、共通論題の情報保障(視聴覚障害)への対応を新たに盛り込む必要があり、この点は、オンライン技術サポートチームの畠中幹事とチームメンバーの熊沢会員(福島大)にお願いした。また同じチームメンバーの垣田会員(大阪市立大)には当日までのオンライン参加者の質問に対応してもらおうこととした。参加費の振込手続きがないため、大会パンフの発送は幾分余裕があったため、通常よりも1か月程度遅い9月下旬までに印刷を終了し、発送を開始した。

オンライン開催に向けてのリハーサルは秋季大会企画委員会に任せて、金井委員長の指示のもと実施し、Zoomの技術的問題をオンライン技術サポートチームの畠中会員に対応策を考えてもらい、当日トラブルが発生しないようにしていった。

共通論題は2回目の検討会を9月11日に開催し、その際、開催実行委員会も参加してのZoomリハーサルを埼玉大の東京ステーションカレッジ(神田)で行なった。報告者は自宅等から配信して、開催実行委員会の金井・畠中・熊沢会員が機材チェックで会場に入った。当初は、開催実行委員会がここに集まり、Zoomの進行状況をみながらトラブル対応をする予定であった。しかし、感染状況は悪化し、かつ開催実行委員会でのクラスター等の心配もあり、最小限の人数である金井・畠中会員のみが会場に赴き、他の開催実行委員はそれぞれの自宅等でオンライントラブルに対応することにした。なお、当日の実行委員間の連絡は携帯・パソコンを使って、リアルタイムで対応できるようにし、各セッションにもホストがトラブル対応で困っていないか、それぞれのセッションに実行員会が参加することにした。

3) オンライン大会開催時の運営

開催当日(10月24日)までに、参加登録はいったん2日前に締め切りをし、その時点では478名の参加登録があり、その後に追加された分も含めると535名の登録が

あった。このうち非会員は3割(162名)が非会員であり、社会政策学会の活動を会員以外に広く知ってもらう機会になった。

共通論題と総会は500名まで参加できる設定とし、他のセッションは300名まで参加可能であったが、その範囲内で収めることができた。参加者の少ない自由論題のセッションは10名程度のところもあったが、概ね30名から多いところは100名近い参加者があった。共通論題も200名弱の参加があり、特に大きなトラブルもなく盛況のうちに終了した。

当日は、登録した方がZoomへの参加できないとの連絡が、大会のメールアドレスや学会本部に電話があったが、委員会で一人一人丁寧に対応して入室してもらうことができた。実行委員会は、学会開催中には、各セッションに参加して、進行の妨げになる参加者がいないかを見て回ったうえで、参加者には名前を入力してもらうようお願いしたが、特に問題は起きなかったものの、最後まで実行委員会からのお願いを聞いてもらえない方が2名ほどいた。

学会初の総会はホストをオンライン技術サポートチームの畠中会員にお願いし、Zoomの「反応」で承認をとる方式をとった。総会・共通論題・テーマ別・自由論題すべて当日、報告できなかったものはなく、すべて質疑応答も出来、双方向性も担保できた。情報保障も、聴覚障害対応では、発話を瞬時に字幕に変換してくれる無償のソフトを使い、その字幕を流し続けることで対応した。また、視覚障害に対しては、ダウンロードしたフルペーパーを音読ソフトで読み上げることができない場合、報告者からもらったワード原稿を送付することを考えていたが、今回その要請はなかった。

以上、終わってみれば、小さな対応は数知れずあったが、実行委員会のチームプレイで2日間滞りなく実施できた。当日裏方の実行委員メンバーである、金井、水野、畠中、熊沢、垣田委員に、この場を借りて感謝を申し上げたい。

4) オンライン大会開催後

今回の実施にあたってのノウハウ等は春季大会企画委員会の上村委員長、伊藤副委員長と次回開催校である一橋大学の猪飼会員とZoomを使った引継ぎを2020年12月9日に行い、作成した資料をクラウドファイルとして共有することとした。また、オンライン技術サポートチーム

は解散し、チーフの畠中会員のノウハウを次回は、春季大会企画委員の五十畑会員に引き継ぐことも確認した。

なお、大会開催後に参加者へアンケートを行った。オンライン開催について綿密に準備されていたことや、地方の方や子育て等でこれまで参加しにくかった方から、参加が可能になったことで、感謝のアンケートを多くもらった。改善課題としてはオンラインに慣れないため入室で手間取ったことが課題としてあるが、様々な原因があり、個別に対応が今後も必要と考えている。いずれ双方がオンライン設定に慣れてくれば、この問題は解決できていくことが期待される。

今回は学会初の完全オンライン大会であったが、お陰様で成功裡に終わった。これは、実行委員会内で問題が起きた場合には、すぐに対応をオンライン会議で協議して解決策を導き出したことが大きかった。次回以降オンライン開催の場合、大変なのはリハーサルや当日までのトラブル対応であり、これを実行委員会内で共有できる体制ができれば今後、オンライン大会の開催が選択されても対応可能だと考える。

最後に、今回はキーパーソンに通信環境の問題に詳しい畠中会員をヘッドにしたオンライン技術サポートチームを組めたのは大きかった。改めて、同チームの協力に感謝したい。(石井まこと)

5. 第141回(2020年度秋季)大会会計報告

141回大会の支出は以下の通りである。

(収入)	
プログラム広告掲載料6社	62,000
計	62,000
(支出)	
共通議題準備会交通費	55,570
封筒郵送費(140回封筒再利用)	3,780
zoomアカウント使用料(9・10月分)	66,140
実行委員会郵送費	1,420
プログラム印刷費(1,170部)	242,000
封筒印刷(1,160部)	16,500
プログラム郵送費	145,090
プログラム原稿調整、広告関係(ACプランニング)	110,000
プログラム送料(ACプランニング)	38,500
委託先通信費(ACプランニング)	5,500
委託先コピー代(ACプランニング)	5,500
計	690,000
(支出総計)	
支出ー収入	628,000

6. 社会政策学会2020 年度経常会計予算

※総会で承認されたのち速やかに掲載予定でしたが、
前号での掲載が漏れてしまい、お詫び申し上げます。

〈経常会計〉

【収入の部】

項目	① 20年度予算	② 19年度予算	差額 (① - ②)	備考	19年度決算(案)
会費収入	10,000,000	10,000,000	0		11,595,000
大会参加費	0	1,700,000	△ 1700000	オンライン開催につき参加費を徴収せず	1,634,240
学会誌還元金	650,000	650,000	0		336,714
雑収入	70,000	70,000	0		37,102
その他入金	0	1,000,000	△ 1000000		2,000,000
当期収入合計	10,720,000	13,420,000	△ 2700000		15,603,056
前年度繰入金	13,325,064	12,081,151	1,243,914		12,081,151
収入合計	24,045,064	25,501,151	△ 1456086		27,684,207

【支出の部】

項目	20年度予算	① '19年度予算	差額 (① - ②)	備考	19年度決算(案)
大会開催費	2,400,000	3,400,000	△ 1,000,000		4,021,022
春季大会	1,000,000	1,500,000	△ 500,000	オンライン開催	1,942,240
秋季大会	1,000,000	1,500,000	△ 500,000	オンライン開催	1,500,000
企画委員会活動費等	400,000	400,000	0	フルペーパー, 配布資料印刷, 要約筆記	578,782
春季大会企画委員会活動費	200,000	200,000	0		305,182
秋季大会企画委員会活動費	200,000	200,000	0		273,600
旅費	1,000,000	2,200,000	△ 1,200,000	旅費原則全額支給	1,547,966
部会活動費	500,000	250,000	250,000		132,100
学会誌発行費	4,250,000	4,200,000	50,000	学会誌 12 巻 1 号・2 号・3 号	4,064,811
学会誌代金	2,880,000	2,880,000	0	学会誌 12 巻 1 号・2 号・3 号	2,880,000
編集作業経費	1,000,000	1,000,000	0	学会誌編集委員会業務委託	1,000,000
ネイティブチェック代・謝金等	120,000	120,000	0	英文校閲	66,000
学会誌発送等	50,000	0	50,000	タックシール作成	37,811
編集委員会活動費	100,000	100,000	0		81,000
J-STAGE 掲載費	100,000	100,000	0		0
選挙関連費	0	400,000	△ 400,000		445,665
学会賞関係費	480,000	480,000	0		238,229
記念品代等	80,000	80,000	0	筆耕・賞状	21,210
審査員図書費等	200,000	200,000	0	図書費	217,019
旅費	200,000	200,000	0	学会賞関連旅費	0
若手研究者優秀賞関係費	150,000	0	150,000	賞状、副賞	—
国際交流活動費	650,000	500,000	150,000	2020 年度に費目を起こした 招聘費、通訳補助、学会参加費 補助等	643,769
広報関連費	700,000	200,000	500,000		697,165
メール配信費	100,000	100,000	0	一斉メール	92,400
ウェブサイト管理・構築費	300,000	100,000	200,000	月次ホスティング、ドメイン管理	294,928
英文ニューズレター関連費	300,000	0	0	本部経費から移動 (広報委員会業務のため)	309,837
名簿関連費	600,000	0	600,000		18,000
名簿作成費	600,000	0	600,000	データでのお届け予定 (印刷費カット)	0
名簿発送費	0	0	0	データでのお届け予定 (印刷費カット)	18,000
内外諸学会分担金	150,000	150,000	0	日本経済学会連合、 社会政策関連学会協議会	105,000
本部経費	1,770,000	2,800,000	△ 1,030,000		2,435,916
幹事会費	20,000	20,000	0		443,160
学会事務委託費	1,300,000	1,300,000	0	入退会業務	1,203,180

ニューズレター関連費	50,000	1,150,000	△ 1,100,000		439,764
ニューズレター制作費	50,000	400,000	△ 350,000	1,000 部×3 号	275,880
ニューズレター発送費	0	450,000	△ 450,000		163,884
英文ニューズレター関連費	—	300,000		広報関連費に移動	—
学会誌の電子化事業費	0	100,000	△ 100,000		0
調査費	0	50,000	△ 50,000		0
その他事務経費	400,000	180,000	220,000	封筒作成費、振込手数料等含む	349,812
重点事業費	500,000	300,000	200,000		0
予備費	250,000	250,000	0		9,500
当期支出合計	13,400,000	15,130,000	△ 1,730,000		14,359,143
次年度繰越金	10,645,064	10,371,151	273,913	うち定期預金 10,000,000 円	13,325,064
合計	24,045,064	25,501,151	△ 1,456,087		27,684,207

2020 年 3 月 31 日現在会員数 1,168 名

(名誉会員 37 名, 一般会員 891 名, 院生会員 134 名, 海外会員 10 名, 常勤職についていない会員 96 名)

※ 2019 年度末除名対象 27 名

7. 社会政策学会2020 年度特別会計予算

※総会で承認されたのち速やかに掲載予定でしたが、前号での掲載が漏れてしまい、お詫び申し上げます。

〈特別会計〉

【収入の部】

項目	① 20 年度予算	② 19 年度予算	差額 (②-①)	備考	19 年度決算 (案)
積立金 (経常会計からの繰入金)	0	0	0		0
利子収入	0	0	0		131
当期収入合計	0	0	0		131
前年度繰入金	14,839,363	16,839,232	△ 1,999,869		16,839,232
収入合計	14,839,363	16,839,232	△ 1,999,869		16,839,363

【支出の部】

項目	① 20 年度予算	② 19 年度予算	差額 (①-②)	備考	19 年度決算 (案)
取崩金 (経常会計への繰入金)	0	1,000,000	△ 1,000,000		2,000,000
重点事業	1,000,000	1,000,000	0	学会史印刷費	0
当期支出合計	1,000,000	2,000,000	△ 1,000,000		2,000,000
次年度繰越金	13839363	14,839,232	△ 999,869		14,839,363
合計	14,839,363	16,839,232	△ 1,999,869		16,839,363

8. 2020-2022 年幹事会議事録

通算第5回

・日時: 2020 年 10 月 23 日 (金) 14:00-18:00

・場所: Zoom 開催

・出席: 猪飼、石井、伊藤、禹、榎、金井、金子、上村、菅沼、杉田、畠中、藤原、水野、吉村、大西

・欠席: 石黒、岩永、鬼丸、垣田、熊沢、朱、首藤、田中、所、布川、兵頭、森 (詩)、森 (周)、松本

1) 秋季大会企画委員会報告

金井秋季大会企画委員長より、報告辞退者が1名出たものの、それ以外の報告についてはすべてホームページにアップされていること、オンライン登録が 507 名にのぼっていることが報告された。

2) 総会について

・活動方針

石井代表幹事より、春の社会政策学会において示された3点を活動方針が提案された。今年度は新型コロナウイルスの影響で大会の開催形式が変更されるなどの

影響を受け、活動方針も例年とやや異なる形になっているが、すでに春の大会で会員に説明し、幹事会でも承認されてきたものであることから、この形で翌日の総会に諮ることが承認された。

・予算案

大西事務局長より、予算案についての提案があり、翌日の総会に諮ることが承認された。

禹幹事より、①今年度の重点事業を展開するにあたって特別会計から予算を計上することはないのか、②昨年度検索システムの構築のために予算を計上したが今年度はそれについては必要ないのかとの質問が出された。これに対して、石井代表幹事より、1点めについて今年度の重点事業はまだスタートアップの段階であることから、今後本格的に取り組むことになった時点で、予算規模の検討を行ったうえで来年度の予算には盛り込みたいこと、2点めについて検索システムは今後メンテナンスのために予算を組む可能性はあるものの今年度については必要ないことが説明された。

菅沼幹事より、①ニュースレターの発刊を事務局で行うようになっているが過重な負担になっていないのか、②今年度は新型コロナウイルス感染防止のためにオンライン化されている部分が多く、そのために支出が削減されていることから、若手育成を目的として還元する仕組みを考えるのがよいのではないかという意見が出された。1点めについて、榎 Newsletter 担当幹事より、現在は版の組み作業などは編集経験者に外注しており事務局としては原稿を集める作業に集中できているとの説明がなされた。2点めについては、来年度の予算に反映させることが今後検討されることになった。

・日本学術会議会員任命拒否への総会声明

石井代表幹事より、10月5日に公表した幹事会声明に関して、同じ内容のものを学会声明とすることについて総会にて諮ることが提案され、承認された。

3) 名簿作成について

・学会でのデータ活用について

榎幹事より、①今年度の名簿作成にあたって学会登録内容の学会活動への利用について同意をとること、②これまでの専門分野コードは医療系についての項目が多く会員の実態に即していないことから修正を加えたこと、③専門部会についての回答欄を設けることが説明された。

金子幹事より、専門コードに一部重なる内容がみられる点について指摘があったが、現在の名簿作成では会員が変更点だけを回答する形式になっていること、今後名簿について分析を行う場合、過去の形式を踏襲しておく必要があることから、この形で名簿作成を行うことになった。

・個人情報保護のガイドラインについて

石井代表幹事より、個人情報保護のガイドラインについての提案があり、翌日の総会で諮ることが承認された。

4) 部会活動費補助規程での謝金支出について

石井代表幹事より、部会活動費補助規程での非学会員について、第3回幹事会で謝金の支払いはできないとの話であったが、その後、部会のほうから部会の活性化にはマイナスであるとの意見が寄せられたことから、従来の慣行通り部会の上限額の範囲内で非学会員への謝金を払えるようにするとの提案がなされ、承認された。禹幹事、上村幹事より、共通論題について非学会員を招く際にも謝金を払えるようにするべきではないかとの意見が出され、今後引き続き検討されることとなった。

5) 第141回大会若手研究者優秀賞について

杉田若手研究者優秀賞選考委員長より、第141回大会若手研究者優秀賞の選考の結果として、恩田直人会員「雇用率制度の適用外企業における障害者雇用に関する歴史分析」が選定されたことが報告された。

今回の選考にあたって若手研究者優秀賞選考委員会から、大きく分けて2つの課題提起がなされた。1つは審査対象のチェックはどこで行うのか、2つは審査対象の範囲が現状では広いが、若手研究者支援という趣旨を考えるとファーストキャリアのない院生が不利になることが懸念されるため審査対象を狭めてはどうか。1つめについては、選考委員会が書類に記載された内容に基づいてチェックをするということで確認がなされた。2つめについては、選考委員会のほうから審査対象を狭めるにあたって実務職・専門職にすでに就いている人を除外する方向での提案がなされた。これに対して金子幹事から、実務職に就いている研究者であってもアカデミックな研究を行うにあたっては若手として支援の対象となるとの反対意見が示された。また、禹幹事からは期間の定めのない職に就いている比較的小規模の研究機関の

若手研究者のなかには、大学の教員を志望している場合があるため審査対象を狭めることには慎重を期すべきであるとの指摘がなされた。この賞がどのような若手研究者を支援するものなのかを改めて議論したうえで審査対象の範囲について検討する必要があることから、継続審議されることとなった。そのため、規定の変更は今後なされることとし、次回の若手研究者優秀賞については今回と同じ規定が用いられる。

6) 学会賞選考委員について

石井代表幹事より、学会賞選考委員について2年の任期を迎えた3名に代わって、新たに阿部彩会員、上田眞士会員、福澤直樹会員に委員を委嘱することが提案され、承認がなされた。

7) 重点事業について

上村重点事業担当幹事より名簿・大会プログラムの分析結果について、猪飼重点事業担当チーフよりインターネットを用いて学会員に実施されたアンケート調査(回答率27.9%)についての分析結果が説明された。その際、名簿上の登録が男女のどちらかしかない点が指摘され、入会申込書のフォーマットも含めて改善に向けて今後検討することになった。翌日の総会で、パワーポイントのスライドを用いて10分程度で分析結果を説明することが承認された。

8) 各種委員会報告

・春季大会企画委員会

上村春季大会企画委員長より、共通論題の討論者が田中拓道会員に決まったこと、第1回準備会の日程が決定されたことが報告された。伊藤副委員長より、大会までのスケジュールについての報告がなされた。

・広報委員会

金子委員長より、広報委員会の業務について整理を進めていきたいとの報告がなされた。

・社会政策関連学会協議会

菅沼協議員より、社会政策が関連学会協議会の代表となることについての提案がなされ、承認された。社会政策関連学会協議会で、共同シンポジウムの準備を進めていることが説明された。

9) これからの課題

石井代表幹事より、ワールドプランニング社との契約、

特別会計の使途と財務管理、コロナ禍の幹事会選挙の方法、日本学術会議問題への対応、第144回大会(2022年春)以降の開催校についての検討を今後取り組んでいくとの説明がなされた。

10) 新入会員について

2名の入会が承認された。

・次回の幹事会の日程

次回の幹事会の日程が決定され承認されたが、その後11月28日(土)13:00-14:00に、Zoomにて臨時幹事会が開催されることとなった。

通算第6回

・日時:2020年11月28日(土)13:00~14:15

・場所:Zoom開催

・出席:猪飼、石井、伊藤、岩永、榎、鬼丸、上村、熊沢、朱、菅沼、所、畠中、布川、水野、森(詩)、吉村、大西

・欠席:石黒、禹、金井、金子、杉田、首藤、田中、兵頭、藤原、森(周)、松本

1) 新入会員について

4名の入会が承認された。また、入会申込書の性別欄について、現在「女・男」という表記になっているが、多様な性のあり方が認識されることから、次回幹事会にてどのように変更するかについての検討を行うこととなった。

2) 142回春季大会の開催形式について

開催校代表の猪飼幹事より一橋大学の状況について、東キャンパスの予約はできているものの、新型コロナウイルスの影響で使用許可が下りていないことが報告された。新型コロナウイルスの感染防止のための一橋大学の指標が現在レベル2であるが、全国大会の開催のためにはレベル0になる必要がある。そうした状況を受けて、春季大会企画委員会の上村委員長より、オンラインでの開催が現実的であるとの提案がなされ、承認された。

オンラインでの大会を開催するにあたって、第141回大会(2020年秋)と同様に、開催実行委員会を立ちあげることとなった。Zoomのホストなど労力が必要となる部分については、第141回大会の際に春季大会企画

委員からのサポートがあったのと同様に、第 142 回大会では秋季大会企画委員からのサポートがなされることが確認された。第 141 回大会の経験を踏まえると、人手の確保と情報の共有が重要となる。業者のサポートを活用するのか、オンライン開催のノウハウを第 142 回大会以降どのように引継ぎ、活かしていくのかについても、今後検討がなされることとなった。

また、学会報告の条件になっている「当該年度の学会費支払い」の「当該年度」とは、報告の申し込み時点のことであるため、2020 年度の会費であることが確認された。

3) その他

・人文社会系学会協議会による海外発信について

石井代表幹事より、日本学術会議会員任命拒否問題について、12 月 2 日（水）に海外メディア向けに英文の共同声明が出されるため、それを社会政策学会の英文ホームページに掲載することが提案され、了承された。また、先日社会政策学会でつくった声明の英文版についても、あわせて学会ホームページに掲載する。

・次回幹事会の開催日について

これまで次回幹事会については 2 月 6 日（土）を予定していたが、石井代表幹事に校務が入り開催が難しくなったため、2 月 7 日（日）9：30-12：00 に変更されることとなった。

通算第 7 回

・日時：2021 年 2 月 7 日（日）9：30～11：45

・場所：Zoom 開催

・出席：猪飼、石井、石黒、伊藤、岩永、禹、金井、金子、上村、朱、菅沼、杉田、田中、所、兵頭、藤原、水野、森（詩）、森（周）、吉村、大西

・欠席：榎、鬼丸、熊沢、首藤、布川、松本

1) 新入会員の承認・会費の支払い年度について

5 名の入会が承認された。また、今回入会申込書が届いていたが、申込書に不備のあった方が 1 名いた。そのため、この方については修正された申込書を改めて送っていただき、メールにて稟議とすることとなった。さらに、事前に申込書を送付するとの連絡があったもの

の申込書が届いていない方が 1 名いた。この方については事務局を設置している大学の学内郵便が遅れている可能性が高いことから、そうであれば後日メールにて稟議とすることとなった。

大西事務局長より会費の支払い年度について、過去に年度末の幹事会で承認された新入会員に対して当該年度の会費を請求する点について疑義が出されたことがあるとの引継ぎを受けているためルールを明確にしたい旨、説明があった。年度末に承認された新入会員についても、当該年度に発刊された学会誌はすべて送付されることとなっており、年度末であっても当該年度の会費請求を行うとの提案がなされた。所前事務局長から、本学会では幹事会の際に入会申込の承認が行われることになっているため、申込そのものは幹事会の数か月前になされていることも往々にしてあり、入会を待っている方のことを考えるとできるだけ早く対応したほうがよいとの見解が示された。さらに、3 月の部会にて会員として報告するためには、2 月である今回の幹事会で承認のうえ速やかに手続きをする必要があるとの指摘もあった。こうした議論を踏まえて、幹事会が年度末になされる場合であっても、当該年度の会費の請求を行うことが確認された。

2) 資格喪失者の確認

大西事務局長より、会則第 9 条に基づき、2021 年 3 月末時点で 3 年度分以上の会費を滞納することとなった会員 19 名について、2021 年 3 月末をもって会員資格を喪失することの確認がなされ、承認された。

3) 入会申込書の性別表記について

大西事務局長より、前回の幹事会で継続審議となっていた入会申込書の性別表記について変更案が示され、審議の結果、「性別（ ）〈各自ご記入をお願いします〉」という表記にすることが承認された。

また、会員登録内容の変更届についても同じように性別表記を改正することが承認された。

4) 春季大会企画委員会

春季大会企画委員会の上村委員長より、共通論題については第 2 回準備会を 3 月に開催する予定になっていることが報告された。伊藤副委員長より、自由論題は 15 本、テーマ別分科会では 4 テーマの申し込みがあっ

たとの説明がなされ、第 142 回大会で報告されることが承認された。

5) 春季大会開催実行委員会

次回春季大会はオンラインで実施されるが、一橋大学のほうで実行委員会をお引き受けいただく。猪飼実行委員長より、技術サポートについて、この業務は実行委員会に入っているのがよいと考えられることから、今回の技術サポートの方を兼務の形で実行委員会にも入っていただくことが提案され、承認された。

Zoom アカウントの取得後、それを報告者にどのように伝えるかやパンフレットの作成などについては、こんご大会実行委員会と春季企画委員会のほうで調整がなされることになった。

6) 学術会議アンケートへの対応

石井代表幹事より、社会政策学会幹事会として、学術会議自体が持っている問題点を打ち出す意味で、アンケートに回答すること、アンケートの回答には政府から独立して活動することの重要性をより強調すべき点などを盛り込むことが提案され、承認された。

7) 名簿作成について

石井代表幹事より、年度内に名簿が作成されること、名簿についてはPDF ファイルで作成のうえ、社会政策学会のホームページにアップし、会員にパスワードを伝える形になるとの確認がなされた。

8) 名誉会員の推薦について

大西事務局長より、名誉会員の資格を有する現会員の一覧が示されたが、会則によるとすでに退会した方も資格を有しているのではないかという質問が出され、現会員である必要はない点が確認された。石井代表幹事より、名誉会員の推薦のあり方についていろいろな意見があるが、総会までのスケジュールを考えると時間に制約もあるため、この点については今後検討することとし、今年度は従来通りとすることが提案され、承認された。

9) 幹事選挙について

石井代表幹事より、2021 年秋に予定されている幹事選挙について電子投票にするとの提案がなされ、意見交換がなされた。次回の総会ではかれるように、検討を進めていくことになった。

10) 重点事業について

猪飼幹事より、第 3 回研究者育成セミナーの企画に入っていることが説明された。金子幹事より、1 月にランチ会が開催されたとの報告がなされた。猪飼幹事より報告者を集めるにあたって協力いただきたいこと、研究者育成フォーラムのフェイスブックには多数の登録があり、今後も交流を促進できる場をもっていきたいことが説明された。

11) 地方部会活性化について

石井代表幹事より、地方部会活性化担当の田中幹事、松本幹事、熊沢幹事に会合を開催して、検討していただくことになっている点が報告された。

12) 各種委員会報告

・学会誌編集委員会

学会誌編集委員会の森副委員長より、学会誌の進捗状況として 12 巻 3 号は、本日午前中に二校が届いたためこれから確認を行うこと、13 巻 1 号は、141 回大会共通論題パネリストのフルペーパーは提出済みであること、書評は 141 回大会報告のうち 3 本を予定していて、3 本ともに提出済みであること、分科会報告については 141 回大会テーマ別分科会のうち 2 分科会からフルペーパー提出があり、うち何本を掲載するか、現在最終調整中であること、140 回大会若手賞受賞論文 1 本を掲載すること、投稿論文掲載本数を最終調整中（3 本予定）であることが報告された。

投稿論文の応募状況については、2020 年 7 月締切が 6 本、2020 年 10 月締切が 8 本、2021 年 1 月締切が 7 本であることが説明された。

懇談事項としては、文字数の計算方法間違いや専門コードの記入、キーワードなどについての問合せが多いため、そうした点を改善するために、今後執筆要項と募集要項の修正を検討していくとの提案がなされ、了承された。

・秋季大会企画委員会

秋季大会企画委員会の金井委員長より、第 143 回大会の共通論題は「歴史研究からみる労働と生活の規範形成：資本主義と家父長制の相互作用（仮案）」というタイトルで、座長、コメンテーターは小野塚知二会員、第 1 報告者は亀山俊朗会員（シティズンシップ論、労働の社会学）、第 2 報告は石井香江会員（日独比較、労

災保険において健康な体とは、管理によって理想的な労働者の身体化)、第3報告は富江直子会員(よき市民の規範形成)、第4報告は非会員の満蘭勇さん(かしこい消費者の規範形成)に決まったことが報告された。副題が議論とかみ合ったものになっているのかとの質問が出され、金井委員長より、現時点では仮題なので、今後報告者とも相談して検討するとの説明がなされた。さらに、今の時点ではかなり議論が広がるがどのようなところに絞っていくのかやこれまでの学会での研究蓄積とどのようにかわらせていくのかという質問が出され、金井委員長より今後議論を詰めていくとの回答がなされた。

・国際交流委員会

国際交流委員会の朱副委員長より、1月31日締切の国際学会報告助成と海外研究者招聘助成は応募がなかったこと、前回の国際学会報告助成を受けた会員については、報告後の連絡が届いてから、その後の手続きを進めることになっているとの報告がなされた。

・広報委員会

広報委員会の金子委員長より、関西部会や東海部会から学会の一斉配信メールで部会の情報を流してほしいとの要望があり、地方部会の活性化とあわせて議論してほしいとの話がなされた。これは現在、学会の一斉配信メールは学会全体にかかわることのみで活用し、部会の案内はブログを活用するという運用がなされていることに対してである。

関西部会の運営委員会のメンバーである森(詩)幹事より、2020年12月の関西部会はZoomでの実施であったが、参加者の数が伸びなかったため、今後何かし

らの形で周知がなされるようにしてほしいとの意見が出された。また、元広報委員長の藤原幹事より、以前の幹事会ではメール配信予算以外の問題として、学会の一斉配信メールを大量に流すと大事な情報が大量のメールのなかに埋もれる懸念もあり学会全体にかかわる情報のみとなった経緯があるが、一方で当時から地方部会では一斉配信メールを使いたいとの話が出ていたとの参考情報があつた。金子委員長より、現在部会がZoomで開催されており、部会としても全国から参加していただきたいという要望でもあることから、今回の地方部会からの要望については学会の一斉配信メールで流すこととし、今後については継続審議とすることが提案され、了承された。

13) その他

・次回幹事会予定

活動方針と予算案、若手研究者優秀賞について、共通論題での謝金、今後の開催校について。

・次回臨時幹事会予定 4月10日(土) 15:00～

・次回定例幹事会 5月21日(金)

9. 名誉会員の推挙

第140回大会がオンライン開催となったため、名誉会員の承認が遅れていた里見賢二会員について、第141回大会で開催された2020年総会で、改めて名誉会員として推挙する提案がなされ、オンライン拍手で承認された。(石井まこと)

10. 承認された新入会員

狩谷尚志	一橋大学大学院社会学研究科	社会保障・社会福祉
松本尚子	東京大学大学院総合文化研究科	社会保障・社会福祉
百瀬由璃絵	東京大学大学院教育学研究科	労使関係・労働経済・社会保障・社会福祉
薛 秀娟	関西学院大学経済学研究科	労使関係・労働経済・その他
行岡豊晃	社会福祉法人永甲会	社会保障・社会福祉
本田恒平	一橋大学大学院経済学研究科	労使関係・労働経済・労働史・労働運動史